会報

第103号
平成23年7月1日
新潟県特別支援教育研究会事務局
新潟市中央区1－207－3
新潟市立鏡淵小学校内
℡025(265)4111　Fax025(265)4112
URL http://www.niigata-inet.or.jp/kentokusiken/
E-mail tokusi@niigata-inet.or.jp
発行：文久堂

現状を見据えて

新潟県特別支援教育研究会
会長　毛利隆二

　障害のある子どもの自立や社会参加に向けてきめ細かく指導する「特別支援教育」制度が始まって五年目を迎えていますが、特別支援教育の充実を求める声は年々高まっています。それは、特別支援教育に係る課題が山積している現状の裏返しではないでしょうか。

　特に、特別な教育的ニーズのある児童生徒が年々増加してることをふまえた計画的な取組が早急に求められています。今年度の本県特別支援学級は一〇四四学級（前年比六九学級増）と千校を超え、特別支援学級設置校率は、小学校七五％・中学校八五％となっています。また通級指導教室は一〇一教室（前年比三教室増）となっています。さらに通常学級における特別な支援を要する児童生徒も増加しているようです。

　もはや特別支援教育は、かつて「特殊教育」と呼ばれた時代の一部の学校・学級で行われるものではなく、すべての学校にかかわり、教育において重要な分野を占めるものとなりました。

　各学校においては、校内支援体制の構築、個別の指導計画の作成と活用、関係機関との連携、校内研修の実施、職業教育の充実など、課題解決のために様々な取組を行っています。

　それでも課題は多く、さらに工夫した取組が求められています。

　本研究会では、こうした現状をふまえ、県教育委員会義務教育課特別支援教育推進室との連携をより一層深めた活動を展開するとともに、学校現場に参考となる情報の提供に努めていきます。具体的には、ホームページを新しくして次のことに取り組みます。

一　各地区研究大会における協議内容の工夫に努めるとともに、各大会の概要を紹介します。

二　校内研修で特別支援教育を取り上げている学校、特別支援教育に積極的に取り組んでいる個人・グループを紹介します。

三　知的障害部、自閉症・情緒障害部、肢体不自由病虚弱部、言語難聴部の各研究部の取組を紹介します。

　また、年二回発行している会報の内容も見直しを行い、一層充実したものとなるようにします。

　特別支援教育について、

「特別支援教育は幼児期の子ども全員が必要としている教育支援である。」

「これまでの学校教育のパラダイムの転換に繋がるのでは。」

との声が聞かれます。特別支援教育についての理解を深め、適切な指導・支援を行っていくことは、学習指導や生徒指導と同様に教員一人一人に求められている喫緊の課題です。本研究会ではそのことを受け止め、皆さまに役立つ機関として今年度も努力してまいりますのでよろしくお願いいたします。

平成二十三年度　主な行事予定

五月
　第一回理事評議員会

六月
　各研究部研修予定集約

七月
　会報103号発刊

八月
　関ブロ神奈川大会（9日）
　上越地区特別支援教育研究大会　上越市北部大会（10日）

十月
　全特連全国大会岐阜大会（27・28日）

十一月
　下越地区特別支援教育研究大会　阿賀町大会（8日）
　中越地区特別支援教育研究大会　長岡大会（25日）

二月
　第二回理事会（3日）
　会報104号発刊

　各研究部の研修は、それぞれの研修計画に沿って実施

新潟県の特別支援教育の推進

県教育庁義務教育課
特別支援教育推進室
室　長　佐　藤　昇　誠

一　はじめに

新潟県特別支援教育研究会員の皆様には、県特別支援教育の発展にご尽力いただき、心から御礼申し上げます。

お陰様で、特別支援学校、特別支援学級、通級指導教室での教育が充実してきており、教育的ニーズに応じた専門的な教育を受けたいと希望する子どもたちが、年々増加しております。

また、通常の学級においても、発達障害児なども含めたすべての子どもたちにとって、「どの子も分かる授業」「ユニバーサルな授業」を目指し、実践している教師が増えてきており、大変頼もしく、喜ばしいことと思っております。

それでは、貴研究会会報の紙面をお借りして、新潟県の特別支援教育の推進についての概要を申し上げます。

二　「支援」と「整備」

推進室の基本方針は、発達障害等総合サポート事業を中核とした市町村への「支援」、及び高等部の増設を中心とした「整備」です。

推進室では昨年度、新規にサポート事業を立ち上げ、市町村教育委員会からの要請により、緊急的な事例、及び継続的な支援の必要な事例について、市町村教育委員会と連携して対応しております。

なお、特に困難な事例については、大学教授、医師、臨床心理士などの有識者や専門家のメンバーによるケース会議を開催し、支援方法等についてのご示唆をいただいております。

会員の皆様においても、困難事例が発生した場合は、市町村教育委員会を通してご依頼ください。

また、県では、これまで高等部を中心に全県的視野で特別支援学校の整備を進めてきました。

本年度は、上越地域に吉川高等特別支援学校を開校するとともに、分校2校を本校化し、西蒲高等特別支援学校、駒林特別支援学校を開校しました。

現在、来年度に向けて、いじみの分校に高等部普通学級の設置、新潟市からのご理解ご協力をいただいて、新潟市立白新中学校内に江南高等特別支援学校の分校開校の準備を進めているところです。

三　全校体制で取り組む特別支援教育の充実

今年度初めて「学校教育の重点」の中の重点事項に、特別支援教育が掲げられました。

その中でも特に重視したいことは、すべての学校、学級において、特別支援教育の充実を図り、校内委員会を中核とした、全校体制による組織的な取組です。

また、「個別の指導計画」の作成と実践、評価、改善に取り組むとともに、医療、福祉、労働等の関係機関と連携して「個別の教育支援計画」を作成し、一貫性のある支援を行うことも重要です。その際、特別支援学校のセンター的機能を積極的に活用してください。そのためにも、特別支援学校においては、専門性の向上を図り、センター的機能の一層の充実を図っていただきたいと思います。

さらには、通常の学級と特別支援学級や特別支援学校との交流及び共同学習の計画的実施により、インクルーシブな教育を実現し、子どもたちの社会性を養い、豊かな人間性を育みたいものです。

四　新しい学校づくり検討委員会

県では、子どもたちの多様なニーズへの対応、進路希望の実現、センター的機能の充実等の課題解決に向け、新しい総合的な特別支援学校づくりについての検討委員会を設置しました。

この検討会からの最終報告を基に、新しい特別支援学校づくりのよりよい方向を探るとともに、教育、医療、福祉、労働等が連携した包括的な支援体制の構築を図りたいものと思っております。

五　標準法の改正

標準法の一部改正に伴い、小中学校の学級編制については、市町村教育委員会の裁量に任されることになり、これまでの協議と県教育委員会の同意ではなく、届出となりました。

特別支援学級については、特別支援学級の継続・新設・増設等については、市町村教育委員会からの学級編制の届出が適切であるのかについて、子どもたちの実態等を基に精査し、不適切であれば改善を促すことになります。

六　おわりに

内閣府では、障害者権利条約の批准に向け、制度改革推進会議における様々な議論が進められており、注視しているところです。また、文部科学省では、特別委員会において、推進会議と異なる視点で議論されているところです。

日本におけるより適切なインクルーシブ教育が、現在のシステムを基に、無理のない仕組みで実現されることを望んでおります。

平成23年度　県特特支研　役員

※敬称略

会　　長	毛利　隆二　(鏡淵小)
副会長	熊木　泰広（南本町小）　丸山　　修　(三条小) 竹内淳一郎（新潟市立東特別支援）
理　　事	大野　俊哉（県立高田特別支援）　小林　啓一（新井中央小） 平田　敏則（大洲小）　島倉　昭宏（長岡・千手小）　柳　　久雄（今町小） 本田　俊夫（北辰小）　齊川　　豊（万代長嶺小）　高橋　雄一（小針小） 片野　　亨（光晴中）　東山　泰生（外ヶ輪小）　長谷川義郎（新津第一小） 平野　正史（県立小出特別支援）　藤村　　修（新大教育学部附属特別支援）
会計監査	池原　栄一（糸魚川小）　今井　信雄（新町小）　伊藤　喜一（水原小）

平成23年度　県特支研　評議員

※敬称略

上越地区	上　越	井澤　文夫（飯小） 齋藤　英男（浦川原中）	柏崎・刈羽	和田　英史（半田小） 荻野　健一（松浜中）
	糸魚川	伊野　啓一（大和川小）	妙　高	三田　吉夫（斐太北小）
中越地区	長岡・三島	小林　詞子（栖吉小） 本間　秀宜（大島中）	三　条	福島　　光（長沢小） 八幡　和男（第一中）
	燕・弥彦	鈴木　正尚（燕西小）	加茂・南蒲	有本久美子（田上小）
	見　附	桑原　直哉（名木野小）	小千谷	松井周之輔（小千谷中）
	十日町	石塚　彰雄（川治小）	中魚沼	吉野　孝則（津南小）
	魚　沼	須田　文彦（広神西小）	南魚沼	牛木　善博（湯沢中）
下越地区	村上・岩船	佐野　一彦（金屋小） 中東　正志（朝日中）	佐　渡	児玉　勝巳（加茂小） 永井　　学（真野中）
	新発田	小林　幹雄（紫雲寺小）	北　蒲	遠山　　彰（蓮野小）
	胎　内	浮須　洋子（きのと小）	五　泉	関　　暢夫（五泉北中）
	阿賀野	保科　徳久（京ヶ瀬小）	東　蒲	佐藤　　雅（上条小）
	新潟・北区	佐藤　秀夫（葛塚東小）	新潟・東区	稲垣　　知（東中野山小）
	新潟中央区	小林　和男（栄小）	新潟・江南区	池　典比古（亀田中）
	新潟・秋葉区	藤田　哲也（新津第二小）	新潟・南区	加藤　文子（庄瀬小）
	新潟・西区	田中　賢一（東青山小）	新潟・西蒲区	藤巻　隆二（鎧郷小）
特別支援学校	視覚障害	小西　　明（県立新潟盲）	聴覚障害	横田　敏盛（県立長岡聾）
	病虚弱	上野　秀樹 （県立柏崎特別支援）	肢体不自由	中田　俊幸 （県立上越特別支援）
	知的障害	中川　一之（新潟市立西特別支援）		

23年度　研究大会の紹介ページ

◇◇全日本特別支援教育研究連盟関連◇◇

第45回関東甲信越地区特別支援教育研究協議会　神奈川大会

テーマ　「一人一人が生き生きと輝き、豊かに生きる支援の在り方を求めて」
期　日　8月9日（火）
会　場　グリーンホール相模大野他
県内職員派遣
第2分科会：個別の教育支援・支援シート
（提案発表者）長岡市立養護学校
諸橋　　忍教諭
（司会者）　長岡市立寺泊小
藤塚　仁志教諭
第15分科会：自閉症・情緒障害学級での支援の在り方
（提案発表者）加茂市立若宮中学校
山本　満紀子教諭
（司会者）　三条市立三条第一中
中村　慶子教諭

第50回全特連全国大会岐阜大会

テーマ　「学びあい育ちあい、自立と社会参加をめざす子どもたち」
～すべての子どもたちに楽しい学びと心豊かな生活を～
期　日　10月27、28日（木、金）
会　場　岐阜市長良川国際会議場ほか
県内職員派遣はなし
功労者表彰
昨年度県特支研副会長　西山 康春氏
（前上越市立南本町小学校長）を推薦

各部の研修予定

知的障害部・・・8月10日（水）
会　場：白根学習館　ラスペックホール
自閉症・情緒障害部・・・8月4日（木）
会　場：新潟市民会館　多目的ホール
言語・難聴部・・・ 8月2日（火）
会　場：長岡市立中央図書館2階
肢体不自由・病虚弱部
研究誌発行予定

各地区研究大会の開催

上越地区特別支援研究大会
上越市北部大会
期　日　8月10日（水）
会　場　リージョンプラザ上越

中越地区特別支援研究大会長岡大会
期　日　11月25日（金）
会　場　長岡市立劇場、
長岡市教育センター

下越地区特別支援研究大会阿賀町大会
期　日　11月8日（火）
会　場　阿賀町役場鹿瀬支所

県特支研のホームページを覗いてみてください。

県特支研の役員、事業、会報などの情報や特別支援学校へのリンクはこちらから

地区大会の情報はこちらから

今年度new!!　ページです。
実践紹介ではこれから個人･団体の実践を広くご紹介いたします。

同様に研究部のページもあります。